

# 2030～2040年頃の社会経済の展望

## ◆人口減少の本格化、人生100年時代の到来

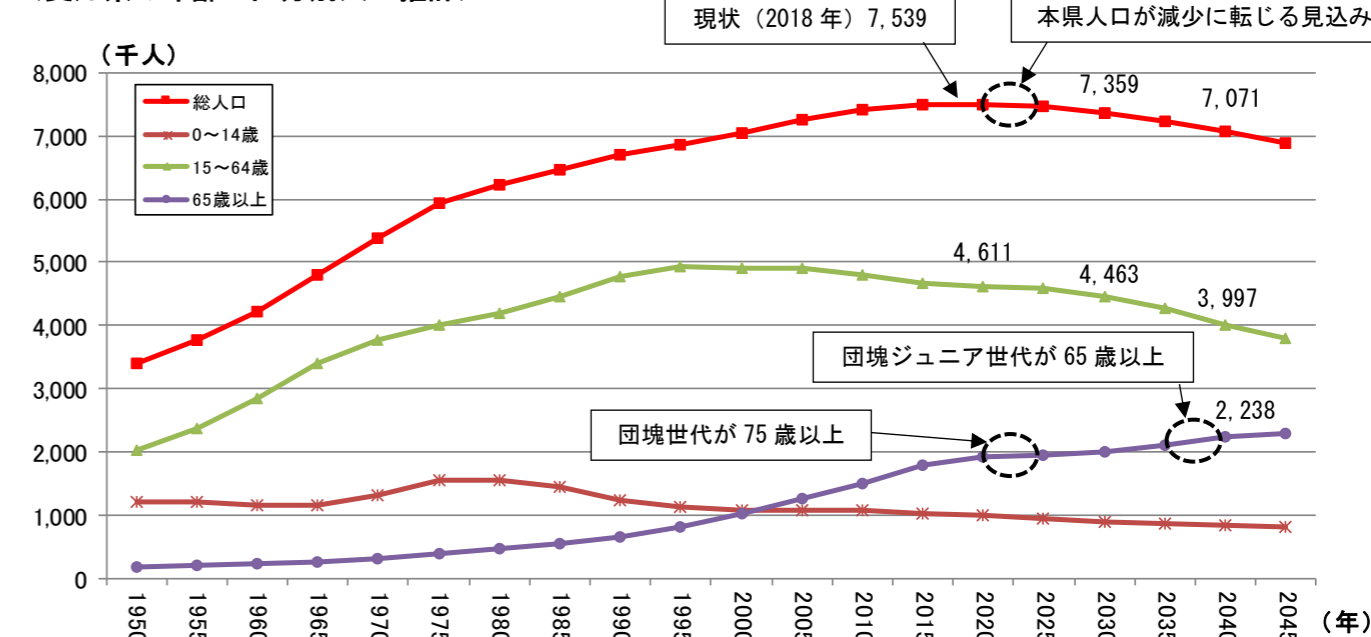
### 【展望】

- **本県の人口**（2018年：754万人）は2020年から2025年頃までに減少に転じる見込み。その後、2030年には736万人、**2040年には707万人に減少**する。
- **生産年齢人口**（15～64歳）は減少幅が拡大していく。（2020年：461万人→2030年：446万→2040年：400万人）
- 2025年には団塊の世代が75歳以上となる。**2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上**となり、**高齢化率が30%を超える**。
- 医療の高度化や健康意識の高まりにより、**健康寿命は延伸**すると見込まれる。（健康寿命（2016年）男性：73.06歳 女性：76.32歳）

### 【起こりうる事象・リスク】

- 生産年齢人口の減少に伴い、経済社会の担い手不足が深刻化。**女性や高齢者、障害者、外国人など、多様な人材の活躍**が、これまで以上に強く求められるようになっていく。
- 生産年齢人口の減少が経済成長の下押し圧力になる一方、生産性の向上や多様な働き方を支える**サービス分野**、急増する高齢者向けの**医療・介護分野**などで**新たな市場が誕生**する。
- 経営者の高齢化が引き続き進展し、「**大企業承継時代**」が続いていく。

＜愛知県の年齢3区分別人口推計＞



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」（平成30年（2018年）推計）

## ◆第4次産業革命の加速化

### 【展望】

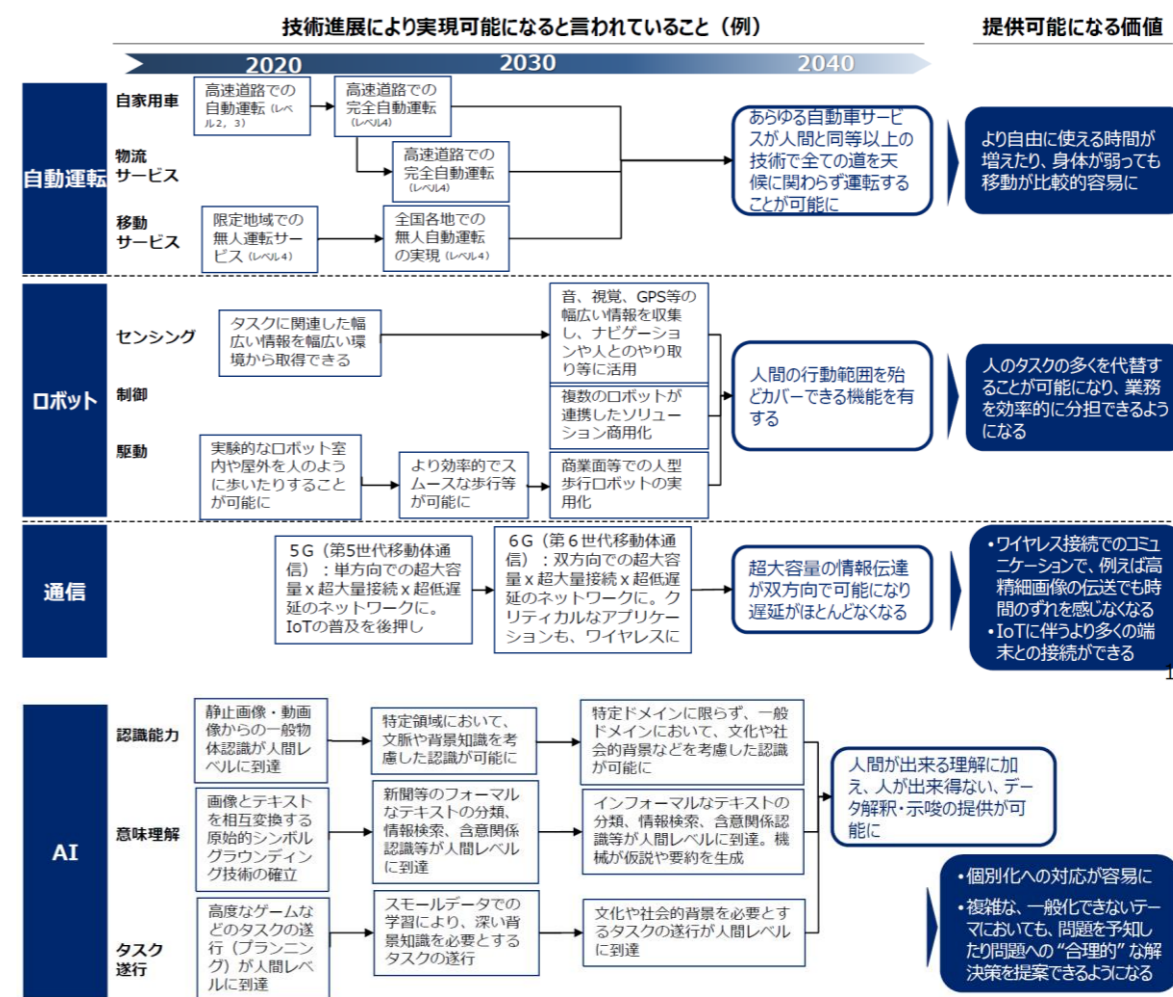
- デジタル技術を核とした**第4次産業革命が進展**し、**2040年頃に向けて社会実装**されていく。
- ＜自動車＞
  - ・ **MaaS（※）が本格化**。2030年にかけて、限定地域や高速道路での**完全自動運転が実現**。2040年にはあらゆる自動車サービスが人間と同等以上の技術で運転することが可能に。
- ＜ロボット＞
  - ・ 2040年に向けて人間の行動範囲をほとんどカバーできる機能を有する。
- ＜通信＞
  - ・ 2020年から5Gが普及し、**IoTの普及**を後押し。ポスト5Gでは、超大容量の情報が双方向で遅滞なく伝達可能に。
- ＜AI＞
  - ・ 認識能力や意味理解、タスク遂行の各面で、特定の領域での機能から、人間が理解できる領域、さらには**人間が出来ないデータ解釈・示唆の提供**が可能に。

- 様々な分野で所有から利用へのシフトが進み、**シェアリングエコノミーが拡大**する。
- **オープンイノベーションが進化**し、イノベーションの主体に政府や公共、大学、産業のほか、市民が加わるなど、多層的に相互連携・共創するイノベーションネットワークが進む。

### 【起こりうる事象・リスク】

- 付加価値の源泉が、モノをつくり、売ることから、**デジタル技術などを生かしたサービスの提供へと移行**し、モノづくりのみでの競争力は失われていく。
- 自動車産業のCASE・MaaSの進展に伴い、完成車メーカーを中心に多種多様な部品・部材を供給する**本県の産業構造に大きなインパクト**が及ぶ。
- **革新的な技術やサービスを社会実装**するにあたり、産学行政や市民との連携の必要性が高まっていく。

＜2040年にかけて見込まれる技術の進展＞



出典：厚生労働省・経済産業省「未来イノベーションワーキング・グループ」中間取りまとめ（2019年3月）

## ◆技術の進化等に伴う雇用の二極化、働き方の多様化

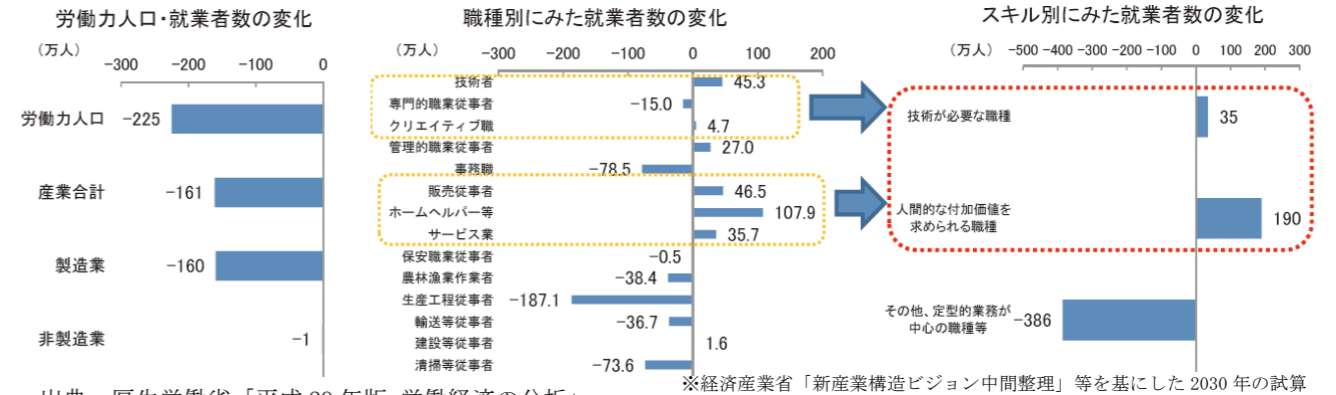
### 【展望】

- AI・ロボット等の技術の進化に伴い、単純な業務は機械が担うようになり、人間にしかできない業務への労働需要が高まる。
- 終身雇用や年功賃金といった日本型雇用慣行の見直しが進む。
- 家庭生活や地域活動等と仕事の調和を望む働き方や、特定の組織に所属するのではなく、自らのスキルを生かせる場を、その時々で見つけるような働き方が広がっていく。
- ICT等の進展により、固定された時間や場所で働く必要がなくなったり、障害や言語による障壁が解消されるなど、多様な人材が就業できる環境が整っていく。

### 【起こりうる事象・リスク】

- イノベティブ・高スキルな職種の需要が高まる一方、低スキルな職種は低賃金・雇用の不安定化が進むなど、雇用の質の二極化が一層進展する。
- 一つの組織で働き続けることが一般的でなくなる可能性があり、社会が必要とする職業能力を適時適切に学ぶことができる環境の必要性が高まっていく。
- ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティを重視した事業活動・経営の重要性が一層高まっていく。

## <AIの進展等による就業者の増減>



## <AI人材の需給ギャップ>

AI需要の伸び	2018年	2020年	2025年	2030年
16.1% (平均)	3.4万人	4.4万人	8.8万人	12.4万人
10.3% (低位)		2.8万人	2.7万人	1.2万人

※「平均」は複数の市場調査結果の平均値、「低位」は低位の伸びの市場調査結果。AI人材の生産性が年0.7%上昇すると仮定。  
出典：経済産業省「IT人材需給に関する調査」(2019年4月)

## ◆世界経済の多極化、資源・エネルギー問題の深刻化

### 【展望】

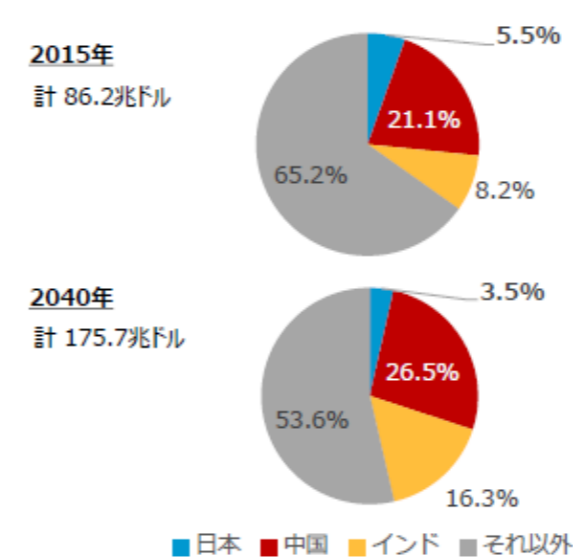
- 中国が世界最大の経済大国となっており、インドも日本を大きく上回る経済規模になっている。
- 日本のGDPの世界シェアは2015年の5.5%から2040年には3.5%へ低下し、世界経済での存在感が低下していく。
- グローバルなサプライチェーンや観光など、世界経済の相互依存関係は深化していくと見込まれる一方、足元における保護主義的な動きなど、世界経済の先行きは不透明。
- 全世界では人口増加や経済成長が続くため、資源・エネルギー問題や地球温暖化などの地球環境問題が一層深刻化する。

### 【起こりうる事象・リスク】

- 企業や人材は自らの進出場所や活動地域をグローバルな視点で選択していく傾向が続き、世界各国・地域において企業や人材の獲得競争が激化していく。
- グローバルな経済活動を展開していくために、国家レベルのみではなく、地域間でのパートナーシップの必要性が高まる。
- 経済活動における持続可能性の重要性が一層高まり、国連が定めたSDGs(※)の実現が強く求められていく。

(※) SDGs : Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標

## <世界経済に占めるGDPシェア>



出典：厚生労働省・経済産業省「未来イノベーションワーキング・グループ」中間取りまとめ(2019年3月)

## <SDGs (持続可能な開発目標)>



出典：国際連合広報センター

(参考) 2040年に向けた愛知県の大型プロジェクト

2019年	●愛知県国際展示場 (Aichi Sky Expo) 開業 ●技能五輪全国大会・全国アビリンピック開催 ●ラグビーワールドカップ開催	
2020年	●技能五輪全国大会・全国アビリンピック開催 ●ワールドロボットサミット・ロボカップアジアパシフィック大会開催 ●豊田・岡崎地区研究開発施設用地引渡完了	東京オリンピック・パラリンピック
2021年		
2022年	●ジブリパーク開業	北陸新幹線 (金沢・敦賀) 開業
2023年		
2024年		
2025年	●新・愛知体育館開業	大阪・関西万博
～2030年	●アジア競技大会 (2026年) ●リニア中央新幹線 (名古屋-東京間) 開業 (2027年)	
～2040年	●リニア中央新幹線 (名古屋-大阪間) 開業 (2037年)	